

国際舞台芸術祭

第11回「フェスティバル/トーキョー18」開催決定

フェスティバル/トーキョー実行委員会（名誉実行委員長：高野之夫 豊島区長、実行委員長：福地茂雄）は、フェスティバル/トーキョー18の開催を発表いたしました。

フェスティバル/トーキョー（以下 F/T）は、同時代の舞台作品の魅力を多角的に紹介し、舞台芸術の新たな可能性を追求する国際舞台芸術祭です。10周年、11回目の開催となる F/T18 は、2018年10月13日（土）～11月18日（日）までの37日間、国内外のアーティストが結集。F/Tでしか出会えない国際共同製作プログラムをはじめ、野外で舞台芸術を鑑賞できる作品、若手アーティストと協働する事業、市民参加型イベントなど、多彩なプロジェクトを展開していきます。

2014年から開始した「アジアシリーズ」では、本年度より新たな切り口で、現在進行形のアジアの舞台芸術やアートを一カ国に限定せず紹介。2016年から開始した「まちなかパフォーマンスシリーズ」では、「劇場」から飛び出し、観客、参加者とのあたらしい関係を紡ぎ出す作品を上演いたします。

オープニング・プログラムとして、タイ人振付家・ダンサーのピチェ・クランチェンによる祝祭的な野外ダンス公演の南池袋公園での上演や、3年間にわたるプロジェクトのマレビトの会『福島を上演する』は集大成となる予定です。

なお、参加アーティスト情報は6月中旬、プログラムの詳細は7月中旬に発表いたします。

開催概要

名称： フェスティバル/トーキョー18 Festival/Tokyo 2018
会期： 平成30年（2018年）10月13日（土）～11月18日（日）（予定）37日間
会場： 東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園 ほか
※内容は変更になる可能性がございます。

ディレクターズメッセージ

戦争でもなく、平和でもないこの陰湿な世界、それを分断化された社会と言おうと何であれ、そこを飛び越え、脱ぎ捨てていく「新しい人」が世界中に大量にあらわれることを予感させるプログラムをフェスティバルトークョーは提示し続けてきた。今年も変わらない。「新しい人」がどのような世界を、またアートを創り出すのか、ほんの少しだけ、そして少しずつ見えてきている。私のできることは、それをプログラムとしてあらわせるだけなのだが、もう交代の時がきている。



フェスティバル／トークョー18 エグゼクティブ ディレクター 市村作知雄

フェスティバルトークョーは新しい体制に移行します。

これまで当然と信じて疑わなかったさまざまな価値が、じつはとっくに失効していることに気づきながら、次の地平がまだ明確には見えていない。それが世界の現状だと理解しています。この現状に対して、さしあたり信じられるのは、表面の瞬間的な変化ではなく、もっと根本的なところでゆっくりと進む、思考や行動の枠組みの、愚直で誠実な問い直しと鍛え直しです。それはすでにあちこちで始まっていることも、私たちは知っています。



フェスティバルトークョーのこれまでの蓄積を継承しながら、数年かけて、新しい形を探っていきます。専門性のちがう2人による共同ディレクター体制もそのための試みです。フェスティバルの準備は通常複数年にまたがるので、ゆっくりとした着実な移行のために、前ディレクターにも今年に限りエグゼクティブとして残ってもらいます。ひとつひとつのプログラムが問いかけであり応答です。楽しみにしてください。

フェスティバルトークョー ディレクター 長島 確

ここ数年感じていることは、ひとつの作品を成立させるために、既に価値観を共有している限られた人を集めることや、個人の才能のトップダウンで創っていく方法は、もう通用しないのではないかということです。少なくとも私は、誰かのオーソドックスに合わせるのではなく、敢えて違う考え方や専門性を持っていたり、違う状況を背負っている人と、対話をしながら特別な時間を創ることに可能性を感じています。これまでの経験の中で、私と同じような感覚を持つ人が、国内外の地域を問わずにいることを掴んでいます。簡単なことではありませんが、まずは彼らとパートナーシップを組みながら、これからのフェスティバルをつくっていきたいと思います。



フェスティバルトークョー 共同ディレクター 河合千佳

フェスティバル/トーキョーとは

フェスティバル/トーキョー（F/T）は、東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集結する文化拠点を中心に開催する、日本最大級の国際舞台芸術祭です。2009年に誕生し、過去10回の開催において、270作品、2045公演、約61万人を超える観客・参加者が集いました。

昨年秋に開催されたF/T17は、F/T実行委員会、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）が主催し、文化庁による助成、多くの企業の支援のもと2017年9月30日（土） - 11月12日（日）までの44日間、開催されました。毎年、国内外の先鋭的なアーティストが集結し、都市型フェスティバルの可能性とモデルを更新するべく、新たな挑戦を続けています。



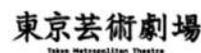
主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会

豊島区／公益財団法人としま未来文化財団／ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）



フェスティバル/トーキョー18は東京芸術祭2018の一環として開催されます。



広報用素材をご用意しています。素材手配につきましては下記までご一報ください。

広報に関するお問い合わせ：

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報：小倉明紀子、神永真美
TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207 MAIL：press@festival-tokyo.jp
〒171-0031 東京都豊島区目白5-24-12 4階
ウェブサイト www.festival-tokyo.jp

演劇×ダンス×美術×音楽…に出会う、
国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョー

国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョーの新ディレクターを発表

ディレクターに長島 確が就任



フェスティバル/トーキョー実行委員会(名誉実行委員長:高野之夫 豊島区長、実行委員長:福地茂雄)は、
フェスティバル/トーキョー(以下F/T)の新ディレクターに長島確が就任することを発表いたしました。

F/Tは2009年の開始以降、東京で開催される国内最大規模の国際舞台芸術祭として、日本のみならずアジアの同時代の舞台芸術を牽引してきました。今後もF/Tは新ディレクターの長島確、共同ディレクター河合千佳の統括の下、舞台芸術の多角的な魅力を発信し、東京や日本の文化・芸術の発展に貢献していきます。
なお、今秋のフェスティバル/トーキョー18の開催概要については、5月に発表予定です。

長島確メッセージ

この10年にわたって演劇・ダンス・アートの現在を牽引してきた国際舞台芸術祭フェスティバル/トーキョー(F/T)のディレクターを引き継ぎます。演劇やダンスは作り手も観客も同じ時間に同じ場所にいなければ成立しません。そんな面倒なメディアが、この巨大な速度と過密の都市・東京を基点に、いまあらためてどんな機能を果たせるのかに興味があります。F/Tはこれまで、アートの重要な役割のひとつとして、政治や経済の主流とは別のチャンネル、別のドアを開くことに注力してきました。それはすなわち、新しい交点や接点を生み出すことであり、現実社会のなかに、もうひとつの(居場所)を再現することでもあります。今年2018年度は移行期として、現ディレクター市村作知雄氏のプログラムを引き継ぎつつ、次年度以降へ向けて、共同ディレクターとなる河合千佳氏とともに、新しい世代のためのフェスティバルを目指していきます。

■長島確プロフィール

長島 確 (ながしま・かく)

1969年東京生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わるようになる。その後、日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年は演劇の発想やノウハウを劇場外に持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』(阿部初美演出、TIF2007)、『4.48 サイコシス』(館屋法水演出、F/T09 秋)、『フィガロの結婚』(菅尾友演出、日生オペラ 2012)、『効率学のススメ』(新国立劇場、ジョン・マグラー演出)、『DOUBLE TOMORROW』(ファビアン・プリオヴィル演出、演劇集団円)ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』(ともに東京アートポイント計画)、「ザ・ワールド」(大橋可也&ダンサーズ)、『←(やじるし)』(さいたまトリエンナーレ 2016)など。

東京芸術祭 2018「プランニングチーム」メンバー、東京藝術大学音楽環境創造科特別招聘教授。

■フェスティバル/トーキョーとは

フェスティバル/トーキョー(F/T)は、東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集結する文化拠点を中心に開催する、日本最大級の国際舞台芸術祭です。2009年に誕生し、過去10回の開催において270作品、2045公演、61万人を越す観客・参加者が集いました。

昨年秋に開催されたF/T17は、F/T実行委員会、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益法人東京都歴史文化財団)が主催し、文化庁による助成、多くの企業の支援のもと2017年9月30日(土)-11月12日(日)までの44日間にわたり開催されました。2016年から東京芸術祭の一環として開催され、国内外の先鋭的なアーティストが集結し、都市型フェスティバルの可能性とモデルを更新するべく、新たな挑戦を続けています。



■F/Tの歩み

NPO法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ)が2002年から開催してきた東京国際芸術祭(TIF)を、行政機関等との連携の下、「フェスティバル/トーキョー」と名称を変え、2009年に新たなフェスティバルとしてスタート。第1回は春、2回目以降は秋に開催されている。国内外のオリジナルな作品創作と上演、公共空間でのパフォーマンス、観客参加型演劇などを積極的にラインナップ。プログラム・ディレクターは、2009年～2013年相馬千秋が担当し、2014年から市村作知雄がディレクターズ・コミッティ代表に就任(2016年からディレクター)。

2018年(平成30年) 2月9日(金)
フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

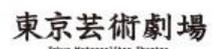
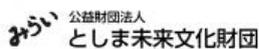
F/T 開催実績

	F/T09 春	F/T09 秋	F/T10	F/T11	F/T12	F/T13	F/T14	F/T15	F/T16	F/T17
	2009年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
名誉実行委員長	高野之夫 豊島区長									
実行委員長	市村作知雄						荻田 伍		福地茂雄	
ディレクター	相馬千秋 プログラムディレクター						市村作知雄 ディレクターズコミティ代表		市村作知雄 ディレクター	
							小島寛大 副代表	小島寛大 副代表 河合千佳 副代表	河合千佳 副ディレクター	
会期	2/26-3/29 (32日間)	10/23-12/21 (60日間)	10/30-11/28 (30日間)	2/26-3/29 (32日間)	10/27-11/25 (30日間)	11/9-12/8 (32日間)	11/1-11/30 (30日間)	10/31-12-6 (31日間)	10/15-12/11 (58日間)	9/30-11/12 (44日間)
主催プログラム数	14 演目	16 演目	15 演目	10 演目	12 演目	16 演目	15 演目	15 演目	16 演目	14 演目
公募プログラム数	-	-	8 演目	11 演目	11 演目	9 演目	-	-	-	-
連携プログラム数	5 演目	4 演目	3 演目	6 演目	9 演目	6 プログラム	11 演目	18 演目	14 演目	12 演目
公演回数	127	155	206	241	172	285	336	173	171	179
総事業費	約 37,000 万円	約 37,000 万円	約 33,000 万円	約 33,000 万円	約 35,000 万円	約 35,000 万円	約 36,000 万円	約 29,000 万円	約 24,000 万円	約 23,000 万円
のべ総来場者数	約 6 万人	約 6 万 5 千人	約 6 万 5 千人	約 3 万 5 千人	約 4 万人	約 10 万人	約 6 万人	約 6 万人	約 8 万人	約 5 万人
参加アーティスト (抜粋/50音順)	鮎屋法水 山海塾 白井剛 蛭川幸雄 平田オリザ 松田正隆 ロメオ・カステルッチ	イ・ユンテク 維新派 黒田育世 タニノクロウ ブルーノ・ベルトトラオ 松井周 ラビア・ムルエ リミニ・プロトコル	ジゼル・ヴィエンヌ 高山明 勅使川原三郎 前田司郎 三浦基 ロジェ・ベルナット ロドリゴ・ガルシア クリストフ・マルターラー	伊藤キム カオス・ラウンジ ジェローム・ベル 杉原邦生 快快 宮沢章夫 ルネ・ボレシュ	アールバード・シリリング 岡崎藝術座 小野寺修二 ジャン・ミシェル・ ブリュイエル/LFKs 三浦大輔 ユン・ハンソル	いとうせいこう エルフリーデ・ イェリネク 木ノ下歌舞伎 近藤良平 シアタースタジオ インドネシア 梶昇 バック・トゥ・バック シアター	大友良英 白神ももこ ソ・ヒョンソク ピーター・ブルック 毛利悠子 矢内原美邦 渡辺源四郎商店	アンジェリカ・リデル 岡田利規 危口統之 多田淳之介 宮城聡 安野太郎	井手茂太 ジョー・クカサス クリスチャン・ルバ セバスチャン・ マティアス スザンネ・リンケ バク・グニョン 山本卓卓	柴幸男 スン・シャオシン チェン・ティエンジュオ 中野成樹 ピチエ・クランチェン 森栄喜 ワエル・シャウキー

www.festival-tokyo.jp

フェスティバル/トーキョー実行委員会

豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



tokyo-festival.jp

広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報:小倉明紀子、神永真美
TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 MAIL: press@festival-tokyo.jp
〒170-0031 東京都豊島区目白 5-24-12 旧真和中学校 4F

人と都市から始まる舞台芸術祭 フェスティバル/トーキョー18

参加アーティスト発表

フェスティバル/トーキョー実行委員会（名誉実行委員長：高野之夫 豊島区長、実行委員長：福地茂雄）は、フェスティバル/トーキョー18の参加アーティストを発表いたしました。

フェスティバル/トーキョー（以下F/T）は、東京を基点に、舞台芸術の新たな可能性を追求する国際舞台芸術祭です。11回目の開催となるF/T18は、2018年10月13日（土）～11月18日（日）まで開催。若手からベテランまで、ジャンルや国を横断し、多彩なアーティストが結集します。

タイ人振付家ピチュ・クランチェンによる野外公演をはじめ、現在進行形のアジアの舞台芸術やアートを紹介するアジアシリーズでは、バングラデシュやカンボジアなどの作品など、本年度より新たな切り口でF/Tでしか出会えない作品を上演します。また、F/Tとともに新たな境地を開拓し続けるマレビトの会など、日本の先鋭的なアーティストの作品を上演いたします。

なお、プログラムの詳細や追加アーティスト情報は7月11日（水）記者発表会にて発表予定です。

【参加アーティスト発表】

アジアシリーズ vol.5

- ピチュ・クランチェン（タイ）
- ショプノ・ドル（バングラデシュ）
- ローモールピッチ・リシー（カンボジア）

--

まちなかパフォーマンスシリーズ

- L PACK.
 - 坂田ゆかり×稲継美保×田中教順
 - 福田 毅
 - 森 栄喜
-
- マレビトの会
 - ナシーム・スレイマンプール（イラン）
 - 山本卓卓

ほか

各アーティスト&カンパニーのプロフィールは、3頁～をご覧ください。

プロフィール写真などの広報用素材をご用意しています。press@festival-tokyo.jp までご一報ください。

開催概要

名 称： フェスティバル/トーキョー18 Festival/Tokyo 2018

会 期： 平成30年（2018年）10月13日（土）～11月18日（日）37日間

会 場： 東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園ほか ※内容等は変更になる場合がございます。

フェスティバル/トーキョーとは

フェスティバル/トーキョー (F/T) は、東京芸術劇場をはじめ池袋エリアに集結する文化拠点を中心に開催する、日本最大級の国際舞台芸術祭です。2009年に誕生し、過去10回の開催において、270作品、2045公演、約61万人を越す観客・参加者が集いました。

昨年秋に開催されたF/T17は、F/T実行委員会、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン、アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）が主催し、文化庁による助成、多くの企業の支援のもと2017年9月30日(土) - 11月12日(日)までの44日間、開催されました。毎年、国内外の先鋭的なアーティストが集結し、都市型フェスティバルの可能性とモデルを更新するべく、新たな挑戦を続けています。

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会

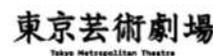
豊島区／公益財団法人としま未来文化財団／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）



本プログラムは東京芸術祭 2018 の一環として開催されます。



—読者の方のお問い合わせ先—

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

URL: www.festival-tokyo.jp

TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 MAIL: toiawase@festival-tokyo.jp

広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報:小倉明紀子、神永真美

TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 MAIL: press@festival-tokyo.jp

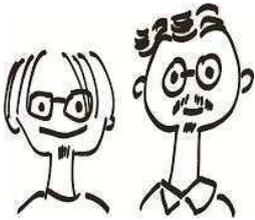
〒170-0031 東京都豊島区目白 5-24-12 旧真和中学校 4階

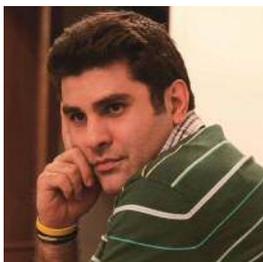
HP: www.festival-tokyo.jp

資料 参加アーティスト&カンパニープロフィール

アジアシリーズ vol.5

<p>●ピチェ・クランチェン Pichet Klunchun (タイ)</p> 	<p>ダンサー・振付家 タイ古典仮面舞踊劇コーンの第一人者チャイヨット・クンマナーのもとでコーンの訓練を16歳より開始。バンコクのチュラロンコン大学で美術・応用美術の学士号を取得後、ダンサー・振付家として舞台芸術を探究。世界の各地で様々な舞台芸術プロジェクトに参加。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ章(2012)、アジア・カルチュラル・カウンシルからジョン・D・ロックフェラー三世賞(2014)等を受賞。F/T17 オープニング『Toky Toki Saru (トキトキサル)』に引き続き、2回目のF/T参加となる。</p>
<p>●ショプノ・ドル Swapnadal (バングラデシュ)</p> 	<p>2001年、代表のジャヒド・リボンにより首都ダッカに創立された劇団。語りと歌を交えたベンガル地方の伝統的な演劇手法を用いながら現代的なテーマを扱い、これまでにタゴールの『チットランゴダ』や『郵便局』など17作品を発表している。代表作である『30世紀』は、インドで開催されたアジア最大級の演劇祭である「第17回インド国際演劇祭(17th Bharat Rang Mahotsav)」(2015)にて上演。その他、国内外の様々な演劇祭に参加している。</p>
<p>●ローモールピッチ・リシー Lomorpich Rithy (カンボジア)</p> 	<p>アーティスト、「Bonn Phum」ディレクター 王立プノンペン大学メディア・コミュニケーション学部卒業。BBCメディア・アクション・カンボジアでのディレクターを経て、2014年にPlerngKobを創設。失われてしまったカンボジアの伝統を現代に接続させることを目的としたボンブン(ビレッジ・フェスティバル)を主催している。第5回目の開催となった今年は、3日間で約140,000人が来場した。別名、Yoki Cöcöとしても活動。</p>

<p>●L PACK. (エルパック)</p> 	<p>小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。各地のプロジェクトやレジデンスプログラム、エキシビションに参加。</p>
<p>●坂田ゆかり×稲継美保×田中教順 (さかた・ゆかり×いなつぐ・みほ×たなか・きょうじゅん)</p>  <p>坂田ゆかり</p>  <p>稲継美保</p>  <p>田中教順</p>	<p>演出家である坂田ゆかり、俳優の稲継美保、ミュージシャンの田中教順による共同創作。</p> <p>【坂田ゆかり】演出家 1987年東京生まれ。東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。2014年、アルカサバ・シアター(パレスチナ)との共同創作『羅生門 藪の中』を演出(F/T14)。近年は展覧会という形式に演劇の技術や考え方を応用させる実験を重ねている。建築家ホルヘ・マルティンとの長期プロジェクト『Dear Gullivers』は、第16回ヴェネチア建築ビエンナーレ(2018)のスペイン館に参加。既存の物語と協働を手段として、地域社会への芸術的介入を試みる。</p> <p>【稲継美保】俳優 1987年兵庫県生まれ。東京藝術大学在学中より演劇を始める。舞台を中心にフリーランスで活動中。これまでに、坂田ゆかり、岡崎藝術座、サンプル、チェルフィッチュ、ミクニヤナイハラプロジェクト、バストリオ、オフィスマウンテンなどの作品に出演している。現在、東京藝術大学音楽環境創造科にて、学生に演技を教え、ともに演劇作品を創作している。</p> <p>【田中教順】ミュージシャン 「抱きたいリズム」をモットーに世界を旅するリズムアディクテッドな大学職員。菊地成孔のdCprG等で活動後、現在ミャンマーやスリランカ等の東南アジアのリズム研究を行う。アメリカン・スピリットCM音楽やドラマ「卒業バカメンタリー」オリジナル・サウンドトラック等でドラム及びパーカッション演奏、リズムアレンジを担当。その他には自身のユニット「未同定」やラテン・ジャズバンドSepteto Bunga Tropisなどで好きに演奏している。</p>

<p>●福田 毅 (ふくだ・たけし)</p> 	<p>俳優 中野成樹＋フランケンズ所属。劇団公演のほか『From the Sea』(F/T14) など、客演も多数。2009年よりソロ・パフォーマンスを開始。近年に、Twitterに書きとめ寓話を構成した『鷹』、同作の改訂版『かも』(共に2015)。まちなかパフォーマンスシリーズ(F/T16、17)では、カフェや劇場のロビーを会場に上演を実施。2018年3月にはショーケース公演『Step into my home』(急な坂スタジオ・ジャパンファウンデーションシドニー)にて海外初進出。</p>
<p>●森 栄喜 (もり・えいき)</p> 	<p>写真家 1976年石川県生まれ。2014年『intimacy』で、第39回木村伊兵衛写真賞を受賞。『tokyo boy alone』(2011)、『Family Regained』(2017)などの作品集のほか、同性婚をテーマにしたパフォーマンス『Wedding Politics』(2013-2016)がある。F/T17では新しい家族の形を提示した映像作品『Family Regained: The Picnic』を池袋西口公園、豊島区本庁舎で上映した。</p>
<p>●マレビトの会</p>  <p>(代表：松田正隆)</p>	<p>2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。被爆都市である広島・長崎をテーマとした「ヒロシマーナガサキシリーズ」(2009-2010)、震災と原発事故以後のメディアと社会の関係性に焦点を当てた『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(2012)、複数の戯曲から都市を多面的に描く『長崎を上演する』(2013-2016)、『福島を上演する』(2016-)などを上演。演劇における上演形式を大きく変化させながらも、未曾有の出来事を経験した都市をテーマに、歴史に回収されえぬものを探り、描き続けている。</p>
<p>●ナシーム・スレイマンプール Nassim Soleimanpour (イラン)</p> 	<p>劇作家・パフォーマー 1981年生まれ。兵役を拒否したために、2012年までイランからの出国を禁止された経験を持つ。自身はイランにいなながらも、作品に旅をさせるスタイルを生み出した2011年の作品『白いウサギ、赤いウサギ』は多くの受賞歴を持ち、これまでに25の異なる言語に翻訳され、その上演回数は1000を超えている。その他の主な執筆作に『ブライント・ハムレット』(2013)、『ブランク』(2015)。現在、ベルリン在住。</p>
<p>●山本卓卓 (やまもと・すぐる)</p> 	<p>劇作家・演出家 思春期に吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する、現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。近年は、マレーシア、タイ、インド、中国、アメリカ、シンガポールで公演や国際共同制作なども行ない、活動の場を海外にも広げている。『少女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『その夜と友達』で第62回岸田國土戯曲賞最終候補作ノミネート。</p>